

国指定史跡 真壁城跡

桓武平氏の流れをくむ真壁氏は、平安時代末から戦国時代の約 400 年にわたり、真壁地方を支配しました。

「城」と聞くと天守閣や石垣を想像される方が多いと思いますが、実はそれは近世の城のかたちです。**中世の関東**では主に「土」を使って城の土台をつくり上げ、真壁城跡では、その痕跡を見ることができます。

真壁城の構造

まず、城をつくるために、守りやすく攻めにくい自然地形を選びます。真壁城は筑波山麓から延びた東西に長い小高い丘の上に造られた^{ひらじろ}平城です。その北側に田中川、西側に桜川、南側に山口川と湿地帯が水堀の役割を果たし、人馬が攻め入りにくい構造となっています。

次に、土を削り平場（曲輪）を造ります。真壁城では本丸（真壁体育館のある曲輪）を中心として二の丸がリング状に設置されています。また、標高が高い東側の山地からの攻撃を警戒して、中城、外曲輪と東へ曲輪を連ねる構造になっています。

最後に、堀を掘った土で土塁を積み上げ、囲われた中に城主の住まいといった建築物を建てるなど、防御性を高める構造に仕上げていきました。

おさえておきたい用語

- ・堀（ほり）…空堀と水堀があり、真壁城では両方があります。
- ・薬研堀（やげんぼり）…V字に掘られた堀のこと。
- ・土塁（どるい）…堀を掘った土を積み上げて造られた防御施設。
- ・曲輪（くるわ）…壁や堀、土塁、自然の崖や川などで仕切られた区画。
区画ごとに指揮官と兵数が決められていた。
- ・櫓（やぐら）…虎口近くや曲輪の角に配置した敵を見張るところ。
- ・戸張（とばり）…城の外側の見張りをするための施設。
- ・虎口（こぐち）…城の入り口。

国史跡指定から現在まで

真壁城跡は平成 6 (1994)年に国史跡(範囲は南北 400m、東西 850m、指定面積 12.5ha)の指定を受け、平成 9 (1997)年から史跡の保存・整備のために発掘調査を行っています。



外曲輪…16 世紀後半の戦国時代、この曲輪に屋敷があったことが分かりました。段差地形や溝で敷地が区切られ、その中に建物の柱の跡（柱穴）や井戸の跡が確認できました。また城内を行き来する城道もめぐっていたことが分かりました。

中城…16 世紀後半の戦国時代、この曲輪に大規模な庭園が広がっていることが分かりました。主殿や舞台状建物、茶室と考えられる建物跡、庭園の敷石や数か所の池、庭園をめぐる園路が確認できました。

出土した遺物 ホームページにて公開中！ぜひご覧ください！



陶磁器



陶器



大筒の玉

現在残された真壁城には、築城当初の姿、年を重ね改修されながら使用された姿、最終的な役目を終え現在に至る姿が土の中に残されており、これらは古文書では分からない多くのことを教えてくれます。

遺物や遺構から分かることを一つ一つ読み解いていくことで定説を裏付けたり、覆したり、新たなことが判明したりと様々ですが、「真壁城」の魅力を皆さんにお伝えしていくためにも今後も継続して調査と研究を行っていきます。

まかべどうむ オススメ散策コース

至 岩瀬・国道50号方面

1 本丸 (駐車場)

真壁体育館のあたりに
本丸がありました

2 二の丸 東虎口

注意！
「調査中」の所は
立ち入り禁止

3 中城 南東虎口

復元した門跡と
城道、土塁は必見！

4 外曲輪 北虎口

階段あり。
土塁に上がる際は
足元にご注意ください

5 IVの堀

360度絶景
写真スポット！
撮影時足元にご注意を

6 外曲輪 東虎口

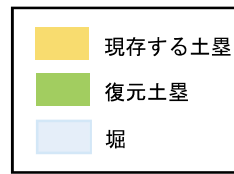
鹿島神社の裏手にある
現存する土塁も
あわせてご覧ください

7 外曲輪 南虎口

敵の直進を阻止する
外柵形(そとますがた)
虎口がポイント！

8 中城 南西虎口

復元した木橋と
そこからの土塁は必見！



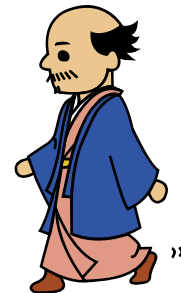
▲かわらけが出た！



▲発掘調査の様子



▲耳皿が出土！
(耳の形のはしおき)



文化財課
キャラクター
「まかべどうむ」

■お問い合わせ■
桜川市教育委員会文化財課
〒300-4408
茨城県桜川市真壁町真壁198番地
TEL:0296-58-5111(真壁伝承館)
MAIL:bunkazai_s@city.sakuragawa.lg.jp

詳しくは
HPへ
↓

至 つくば方面 至 石岡方面

至 真壁伝承館